

脳の個性を科学する

遺伝子と環境がつくる脳の力

日時：12月8～9日

場所：北海道大学学術交流会館 小講堂

札幌市北区北8条西5丁目(北大構内)

特別講演

金澤 一郎 「脳科学と社会」
(日本学術会議・会長)

12月8日 18:00～19:00

入場無料 登録不要

12月8日(火) 13:00～19:00

挨拶：佐伯 浩 北大総長

基調報告：本間 研一(北大・医)：北大脳科学研究教育センターと発達脳科学

■シンポジウム1「脳とエピジェネティク」 座長：室橋 春光(北大・教育)

八木田和弘(大阪大・医)：ES細胞の分化誘導過程における概日時計の発生

森信 繁(広島大・医)：エピジェネティック機構からみたうつ病の病態

渡辺 雅彦(北大・医)：グルタミン酸シグナル伝達とシナプス回路発達

本間 さと(北大・医)：生物時計の発達と母子環境

■シンポジウム2「行動異常の分子基盤」 座長：神谷 温之(北大・医)

柴田 重信(早稲田大・先進理工)：体内時計とエネルギー代謝

桜井 武(金沢大・医)：新規神経ペプチドと睡眠・覚醒・情動

海老原史樹文(名古屋大・農)：マウスの“行動的絶望”を制御する量的形質遺伝子

中尾 光之(東北大・情報)：生体を貫くリズムとそのモデル

12月9日(水) 9:30～14:30

■シンポジウム3「脳の個体差と環境要因」 座長：小山 司(北大・医)

上田 陽一(産業医大)：バゾプレッシンニューロンと浸透圧調節：TRPの関与

吉岡 充弘(北大・医)：セロトニン作動性神経の発達と幼若期ストレス

南 雅文(北大・薬)：痛みによる不快情動生成における分界条床核の役割

井上 猛(北大・医)：うつ病の脳画像所見の臨床的意義

■シンポジウム4「脳科学の新展開」 座長：郷原 一寿(北大・工)

小林 和人(福島県立医大)：学習と行動を制御する神経回路の解析

稲垣 冬彦(北大・薬)：脳科学と構造生物学

永井 健治(北大・電子研)：蛍光タンパク質性機能プローブの精密設計とバイオイメーキングへの応用

主催 北海道大学脳科学研究教育センター

連絡先 世話人/北海道大学医学研究科 本間 さと TEL: 011-706-6058

脳科学研究教育センター事務局 担当：藤田佳奈子 TEL: 011-706-5022 E-mail: brain@med.hokudai.ac.jp URL: http://www.hokudai.ac.jp/recbs/

本シンポジウムは、平成21年度 北海道大学 総長室重点配分経費「全国規模研究集会等の開催支援経費」により開催いたします。